RSSJ特別セッション 2014.5.15 北極海航路における衛星リモートセンシングの役割

# 北極海研究の国内・海外の状況と 衛星リモートセンシングへの期待

国立極地研究所 北極観測センター

之行

## 最近の北極観測の国内活動と国際的な要請

- ・2009年日本の北極評議会オブザーバー国申請
- · 2010年地球観測推進部会 北極研究検討作業部会
- · 2011年北極戦略研究小委員会(文科省)
- · GRENE北極気候変動研究事業2011-2016
  - 国内の研究力集中と国際的研究評価へ
- · 北極担当大使(外務省)着任(2013年)
- ・ 海洋基本計画(2013年):北極圏への言及
- 北極評議会(AC):日本のオブザーバー国参加承認(
  2013年) 環境研究の貢献は日本の特長。技術力も アピール。
   日本へのAC作業分科会参加要請







12月1日に配置した粒子の4月30日時点での分布 を使って夏季の海氷分布を予測

東京大学 山口研究室

## AMSR2による海氷厚さの推定 気候研究:温暖化影響・海氷融解の観測 北極航路予測 冬季の海氷成長⇒夏季の縮小予測へ



## 海氷の年数~厚さ

- 多年氷の減少
  2007年減少のインパクト
- 面積は復活しても厚さに 影響が残る。
- 1年氷:薄い、割れやすい、移動しやすい、光を通す(水温、生態)。

### 連鎖する変化

気温上昇→融解→水面→日射吸 収→海水温上昇+氷表面融解 隙間。岸から分離。

氷が薄くなる。→氷は動きやすくなる。北極海から流出。

広がった海水面では、低気圧活動 が活発になる。波浪の増加。

温かくなって融ける+割れる、流れる、が繰り返す。



83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 Year



pen water 1 2 3 4 Data: NSIDC

# Winter sea ice coverage, Changing winter sea ice conditions

2013.03.04 & 02.18NOAA



Frequent opening/ridging Water vapor and heat releases Summer ice prediction

## 海氷が減った北極海での低気圧発達 Great Arctic Cyclone (GAC) 海況・海氷の急変







20120803\_D



## GCOM-W AMSR2





## https://ads.nipr.ac.jp/VISION/

Purpose To promote the mutual use of data interact across disciplines and develop online visualization application operable intuitively

#### Target Data

1-dimentional (time series etc.) 2, 3-dimensional (satellite, Model Out put)



### Online visualization application

#### Function

Automatic loading of data Zoom and move the drawing area by mouse Graph display Color map Contour Map Time series animation Time series graph plot Cross-section graph plot Text data output







JAXAとの共同で極域環境監視モニター(VISHOP) 2014年5月中旬ころ運用開始予定

# 国際動向、多国間の枠組み





World Economic Forum Jan. 2014 Davos, Switzerland



Challenge 1: The Arctic needs protection from environmental damage, resolution on certain global agreements, and new collaborative models to secure sustainable growth. Challenge 3: The Arctic needs measures to better ensure human and environmental safety in the face of increased shipping and offshore activity.





Challenge 2: The Arctic needs investment.



Challenge 4: The Arctic needs science.







# Arctic Observing Summit 2014 at Arctic Science Summit Week(ASSW)

9-11 April, 2014 Helsinki, Finland







# AOS 2014 Themes

- Stakeholders and Arctic Observations Science Coordination for
- □ Improved Arctic Observing
- Technology and Innovation
- **Remote Sensing Solutions**
- Data Management

21



azimuthal equidistant projection



北極海研究の国内・海外の状況と衛星リモートセンシングへの期待

### 北極をめぐる国際状況

・北極圏の気候変動が環境、社会、産業に影響を与え、その影響は、北極圏の中にとどまらない。⇒ 全球気候/社会システム於ける位置づけへ

- ・2013年5月15日、日本他多くの中緯度の国が北極評議会オブザーバー国となった。
  ⇒ 中緯度の国も含んだ北極への国際的な取り組みが求められている。
- ・日本の科学研究(観測、解析、予測技術)、国際協力への期待が大きい。
  - ⇒ 評価は高まりつつあり、日本への要請は増えている。
- ・開発と環境保全の両方のバランス ⇒ 持続可能性が求められている。
- ・科学の役割 ⇒ 科学以外も含めた国際協力関係を高めることが期待されている。

#### 北極研究活動と社会の関心

・国内:地球温暖化、大気循環、物質輸送、陸・海洋生態系、海洋環境、雪氷と水循環、海水準/氷床不安定、日本(極東アジア)の気候・社会への影響

- 国際的:気候変動研究に対する日本の役割強化、環境監視への貢献
- ・経済や社会(産業:航路・水産・資源) 安定した利用と環境とのバランス

### 衛星リモートセンシングへの期待

- ・広域、接近や滞在困難、分散する基地を面的につなぐ北極観測を可能にする。
- ・将来予測につながるモデルと観測をつなぐもの
- 国境を越えた観測を可能にする:(日本:北極域に領土を持たない)
- ・データのアーカイブとリアルタイム提供(調査研究、生活・社会、産業、安全)